

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	山田 恵	職名	助教	学位	学士(教養)
----	------	----	----	----	--------

研究分野	研究内容のキーワード
助産ケア 女性の健康支援 思春期健康教育	女性の健康 予防行動 セルフチェック 母親 思春期 母子関係

研究課題
子育て中の女性の健康に関する意識や予防行動の実際を調査し、健康増進のために必要な支援の効果を考察していく。

担当授業科目
<p><助産別科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合看護学(前期) ・助産学研究演習(通年) ・助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)(前期) ・助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)(前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)(前期) ・助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児期)(前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)(通年) ・助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)(前期) ・女性の健康支援論(前期) ・助産学基礎実習(前期) ・助産学実習Ⅰ(正常)(後期) ・助産学実習Ⅱ(正常逸脱)(後期) ・助産管理実習(後期) <p><看護学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学演習(前期) ・ウイメンズヘルス看護論(前期) ・母性看護学実習(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 総合看護学 】</p> <p>体験学習を通じて学生が気づいた内容を発表させ、他者との視点の違いなどを理解させた。対象をより理解するために必要な技法について解説したのち演習を繰り返し、技術習得を図った。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)Ⅱ(分娩期)Ⅲ(産褥期)Ⅳ(新生児・乳児期) 】</p> <p>知識を統合させケア実践につながるよう、最終段階で教員が産婦役となりシミュレーション教育を行った。計画はできるだけ詳細に立案し、学生全体で考え意見交換できるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習) 】</p> <p>集団に対する思春期健康教育を実施できるよう中高に依頼した。企画立案から運営まで短期間であったため、事前の調整(高校との打ち合わせや対象の把握)は教員が行い、学生の企画に活かせるようにした。指導内容に関して齟齬がないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障をした。全体的には学生の統括チームのサポート役となり、学生が主体性をもって活動できるように心がけた。</p>

<p>授業科目名【 女性の健康支援論 】</p> <p>学習内容に関して事前課題を提示し、その課題の成果を発言できる機会を設けた。できるだけ現代女性の実状を理解した上で、支援者として何ができるのか常に問いかけた。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習) 】</p> <p>母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習(基礎)(正常Ⅰ)(正常逸脱Ⅱ)(管理) 】</p> <p>基礎、正常Ⅰ実習では今年度初めて他校と重複した実習を行った。実習方法の違いから実習施設に負担がかからないよう他校教員と事前の調整を密に行った。実習期間中は両校の学生の学習向上につながるよう事例検討などの場を設けた。また、遠方実習中の学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。学生の心身の体調把握に努め、必要時指導者へ連絡し過度な負担とならないよう調整を図った。記録指導はメール上(パスワードかけ)で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では24名の学生を担当した。演習資料の作成に関して、学生が理解しやすいよう表記の例文を示した。演習では小グループ活動を取り入れ、学生間の学び合いの場を設けた。成果物の確認後必要時個別指導を行った。2年次に学習した母性看護学方法論とつながるよう教科書の見直しを一緒に行った。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学実習 】</p> <p>急遽産科入院を中止した施設で1グループ母性看護学実習を行った。入院中の母子の受け持ちはできないため、退院された褥婦への了解を得てもらい、カルテ上から対象を把握し看護過程の計画立案までを行った。実施に関しては教員を褥婦に見立て、保健指導を行い評価した。他の実習施設の学生と学習差が出ないように、指導者の協力を得て、模擬母親教室体験や外来実習の充実を図った。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】</p> <p>学習目的が曖昧なまま受講する学生が多かったため学習意欲に差があり、進行に差がみられた。テーマ決定まで頻回に面接を行い、学生が学びたい内容になるよう努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2018年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学び	共著	2018.9	第49回日本看護学会ヘルスプロモーション(於 岡山コンベンションセンター)	①看護学生が企画・実践した乳がん啓発活動からの学びを発表 ②共同発表者名 吉原悦子、古賀玉緒、前田幸、山田恵他 ③第49回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション(P99~102)
				教育研究業績 総数 (2019.3.31現在) 著書 4 (内訳 単1 共3) 学術論文 2 (内訳 共2) 学会発表 17 (内訳 共17)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

<別科学生募集>

- ・別科のリーフレット作成
- ・2018年度のオープンキャンパス（計3回）担当

<別科業務>

- ・実習コーディネーター補佐として施設との調整、実習に関する準備等を行った。
- ・助産学生3名のアドバイザー担当

<学生支援>

- ・看護学科学生、職員の健康相談を、当事者、看護学科教員や保健室職員を通じて受け入れ、関連する病院の紹介や連絡調整を行った。
- ・看護学生が行う乳がん検診・自己検診法の啓発活動のサポート（井堀市民センター）